

経営比較分析表（令和4年度決算）

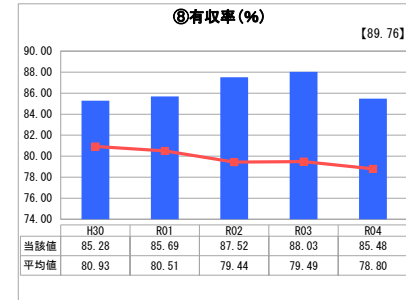
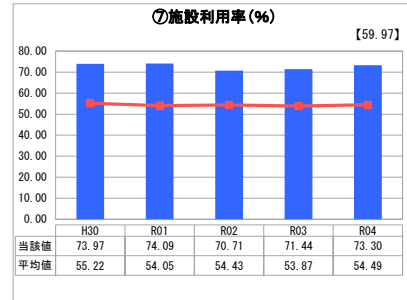
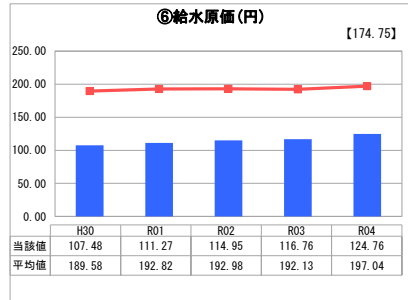
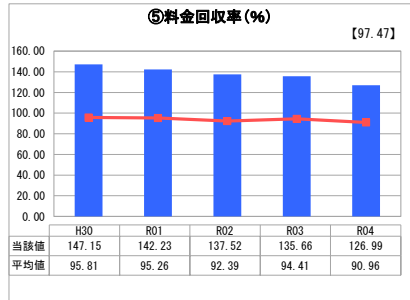
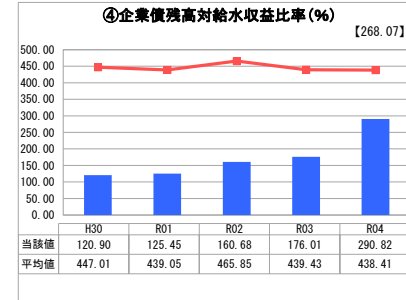
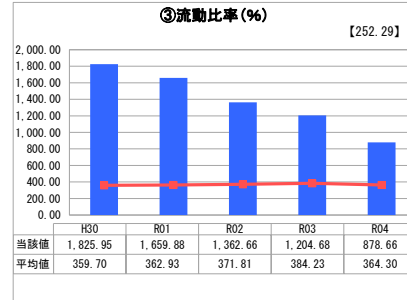
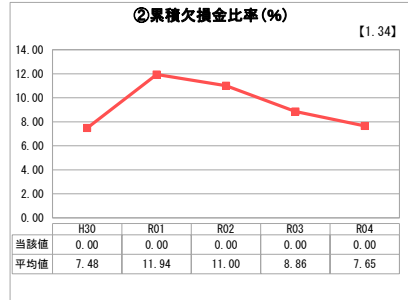
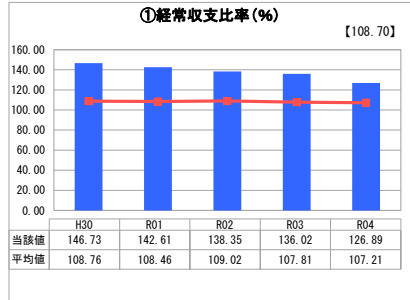
長崎県 佐々町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A7	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ² 当たり家庭料金(円)	
-	75.65	99.89	3,190	

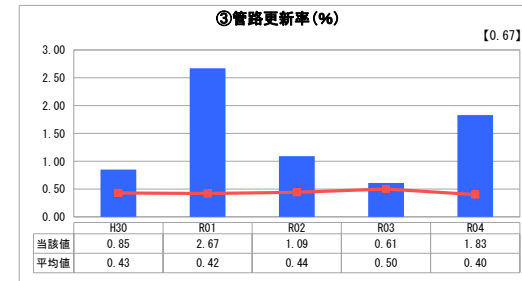
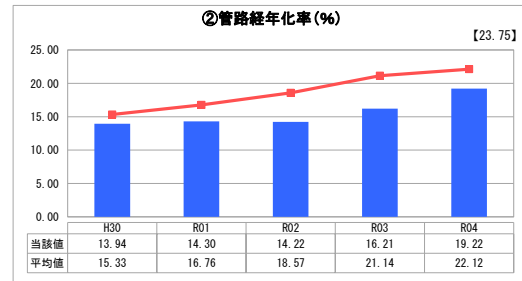
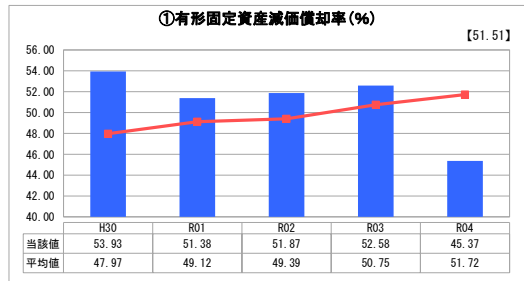
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
14,103	32.26	437.17
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
14,031	11.83	1,186.05

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率は、物価高騰の影響と減価償却費の増加により、前年度と比較すると低い水準になっているが、特定企業や人口維持による安定的な収益が確保されていることに加えて、企業債利息と減価償却費が低く抑えられているため、類似団体比較となる良好な水準となっている。

③ 流動比率、④ 企業債残高対給水収益比率は、前年度から繰り越した投資的事業、当該年度の投資的事業が大幅に増加したことにより、その財源として企業債を借り入れたため、負債が増加し、それぞれ数値が増減している。

⑤ 料金回収率は、安定した100%を上回っており、給水に係る費用は給水収益（水道料金収入）のみで賄うことができている。

⑥ 給水原価は、物価高騰の影響と減価償却費の増加により、前年度と比較すると高い水準になっているが、企業債利息と減価償却費が低く抑えられているため、類似団体比較としては低い原価となっている。

⑦ 施設利用率は、特定企業による需要が高いため、類似団体比較よりも高い水準となっている。

⑧ 有収率は、前年度と比較すると低い水準となっているが、類似団体比較となると良好な数値となっている。今後とも漏水調査を行うことで有収率の向上に努めていきたい。

2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産減価償却率は、前年度から繰り越した投資的事業、当該年度の投資的事業により新規資産の取得が増加したため、前年度と比較すると低い水準となり、類似団体比較としても良好な水準となっている。

② 管路経年化率は、昭和50年～60年代にかけて拡張事業で整備した管が順次、法定耐用年数に越えてきているため、前年度と比較して高い水準となっている。今後とも上昇していく見込みである。

③ 管路更新率は、配水管更新ペースをアップした結果、上昇傾向となった。今後とも計画的に配水管更新を進めていきたい。

全体総括

経営の状況としては、類似団体と比較して健全な状況である。ただし、長期財政計画を作成し、今後の収支を見込んだ際、経営状況が現在より悪化していく見込みとなった。施設の再整備事業を行っていく必要があり、費用が多額になることが予想されるので、計画的な更新と財源の確保を行い、安定的な経営に努めていきたい。今後、「佐々町水道ビジョン」をもとに安全で安心できる水の供給が施設・経営の両面で実施できるように努めたい。